

危機管理課 誰もが安心して過ごすことのできる地域社会の実現に向けて
防犯決起集会および防犯カメラの寄附受納式



防犯対策について講話する英賀谷所長

東城町栗田地域で発生した痛ましい事件から1カ月余りが経過する中、地域における防犯活動の機運を高めるために、7月30日に東城支所を会場に「庄原市防犯決起集会」を開催し、防犯活動に関わる関係者や地域住民など約70人が参加しました。

集会では、庄原警察署東城交番の英賀谷圭介所長による「地域や家庭における防犯対策」の講話や、東城郵便局、田森自治振興区、危機管理課から取り組みの発表がありました。

集会の最後には集会決議を採択し、参加者全員で「市民、各団体、警察、行政が一体となり、防犯活動を積極的に推進し、力を合わせて取り組んでいく」と決意しました。



受納式に参加した皆さん

また、8月6日には、市内の有志5団体（庄原地区交通安全協会、東城交通安全協会、庄原市防犯組合連合会、庄原市暴力追放協議会、庄原安全運転管理協議会）から栗田地域へ設置する防犯カメラが寄贈され、市役所本庁舎で受納式を行いました。

受納式では、5団体を代表して、庄原地区交通安全協会の佐々木満会長から「犯罪の抑止に役立てていただき、安心安全な地域を目指してほしい」とあいさつがあり、八谷市長が目録の贈呈を受けました。

事件後に防犯カメラの設置を要望していた田森自治振興区の名越和之会長は「地元の思いに応えていただいたことに感謝したい」と話しました。

環境政策課 民間事業所初のクーリングシェルター
指定暑熱避難施設協定の締結

8月1日、「ホームプラザナフコ庄原店」と指定暑熱避難施設協定を締結し、本市では初めてとなる民間事業所施設のクーリングシェルターが誕生しました。

※クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）は、熱中症特別警戒アラートが発表された際、市民などが暑さをしのげる場所として開放する施設で、本市では令和6年度に市役所庁舎などを、本年度は自治振興センターなどの公共施設をクーリングシェルターとして指定しています。

8月13日には八谷市長がホームプラザナフコ庄原店を訪問し、中田佑樹店長に対し、クーリングシェルター施設の登録、協力への感謝の言葉を伝えました。

中田店長は「クーリングシェルター指定に際し、店内にベンチやブラインドがある休憩スペースを設置したので、来店時だけでなく、猛暑日などには気軽にご利用いただきたい」と話しました。



店内入り口近くに設置された涼み処



八谷市長(右)から指定書を受け取る中田店長(左)

総務課 被爆者の思いを継承
平和啓発セミナー

市は、原爆や戦争の記憶を風化させず、平和の尊さや戦争の悲惨さを後世に伝えていくことを目的に、毎年、平和啓発セミナーを開催しています。

本年は8月4日に庄原市ふれあいセンターで、7日に東城支所で「被爆体験証言の伝承講話」として講演を行いました。

講演では、被爆体験伝承者の八田聖子さん（庄原会場）、岡本和代さん（東城会場）が、写真や絵、当時の広島市の地図などを使い、被爆者から受け継いだ、原爆の悲惨な状況や平和に対する思いについて語りました。

参加者は「私ができることは小さいですが、できることをして平和を守っていきたい」「80年が経過して戦争を知らない世代が増えているので、伝承していくことはとても大切なことだと思う」と話しました。

市は今後も、戦争や原爆に関する記憶や平和への思いを次世代へ継承していくため、平和啓発事業を推進していきます。



講演を行う岡本さん(東城会場)



講演を聞く参加者(庄原会場)

管財課 建設会社と技術者の施工能力を評価
優良建設工事施工業者の認定、優良技術者の表彰

本年度の庄原市優良建設工事施工業者の認定式ならびに優良技術者の表彰式を7月25日、市役所本庁舎で開催しました。

この制度は、公共工事の品質向上と、建設会社の技術力向上を目的とし、契約額500万円以上の建設工事について、品質や安全対策などを評価する評定点が82点以上（満点100点）の施工業者および技術者を認定・表彰するものです。

令和6年度に完成した対象工事50件のうち、優れた施工技術により認定基準を満たした3社を「優良建設工事施工業者」として認定し、工事を担当した技術者4人を「優良技術者」として表彰しました。

認定制度を創設した平成20年度から、(株)大歳組は9度目、(株)加島建設、西城建設(株)はともに3度目の認定となりました。

八谷市長は認定書と表彰状を手渡し「本市の建設業を担う主体として先頭に立ち、次代を担う子どもたちに夢を与える、憧れの存在であり続けていただきたい」と述べ、その栄誉を称えました。

前列左から(株)加島建設代表取締役加島俊次さん、八谷市長、(株)大歳組専務取締役京本憲幸さん、西城建設(株)代表取締役石川秀基さん、後列左から(株)加島建設 松田誠さん、(株)大歳組 宮脇新悟さん、瀬尾省二さん、西城建設(株) 石田隆洋さん



市民
生活課

更生保護への理解を深める

第75回「社会を明るくする運動」庄原市推進大会



講演を行う大沼さん

庄原市ふれあいセンターで、第75回「社会を明るくする運動」庄原市推進大会を開催しました。

「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

開会式では、古賀正明広島保護観察所長の代理で、光畑学統括保護観察官から大会委員長である八谷市長へ、内閣総理大臣による同運動の推進メッセージが伝達されました。

その後「君の笑顔に会いたくて」と題して、作家・保護司・認定特定非営利法人ロージーベル理事長の大沼えり子さんによる講演が行われました。

大沼さんは、歌や手紙の朗読を交えながら、保護司としての活動や、社会で孤立している青少年たちの居場所づくりを始めた経緯について話し、地域で子どもたちと向き合うことの大切さを参加者に伝えました。

地域
推進課

持続可能なまちづくりを推進

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）にかかる感謝状贈呈式



株式会社松原組の皆さんと八谷市長



ファロスファーム株式会社へ感謝状を贈呈

6月13日および7月29日、市役所本庁舎で、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）にかかる感謝状贈呈式を行いました。

これは、昨年度、株式会社松原組（福山市）とファロスファーム株式会社（大阪府四條畷市）から、企業版ふるさと納税制度を通じて寄付をいただいたことに感謝の意を表するため実施したものです。

当日は、両企業の代表者に対し、感謝状の贈呈を行った後、これまでの事業活動や本市への思い、地域の未来像などについて意見交換を行いました。

なお、株式会社松原組からの寄付は高野町の地域振興事業に、ファロスファーム株式会社からの寄付は農業振興事業および関係人口創出事業に活用することとしています。

今後も「誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちづくり」を推進していくため、企業版ふるさと納税制度を積極的に活用していきます。

教育
指導課

本の魅力を伝える「子供司書」を目指して

「子供司書」養成講座



受講者の前で読み語りをする児童

市教育委員会は、毎年、市内小学5・6年生の希望者を対象に「子供司書」養成講座を行っています。

本年は16人の児童が受講し、7月19日に、第1回目の講座として「全体研修」を行いました。

「子供司書」とは、学校や地域の図書館で読書の楽しさを伝え、周りの友達に読書を好きになってもらうために活動をする、読書活動推進リーダーのことです。

受講者は、日本十進分類法の学習、絵本の読み語りの練習、ポップ作りの演習などに、熱心に取り組みました。

参加した高小5年生の徳永呼春さんは「絵本の読み語りをする際は、見ている人に伝わるよう、たくさん工夫をしていることが分かった。ポップもたくさん作りたい」と話しました。

養成講座では、12月まで図書館業務の体験や、各学校で読書活動を推進する活動を行います。

活動が認められれば、1月に県教育委員会から「子供司書」として認証される予定です。